

東京医科歯科大学 小児歯科学教室同門会 ニュースレター

第7号

令和2年12月発行

ご挨拶

令和2年度は、岩本勉先生が新しく教授として着任されました。今年はCovid-19の影響で、御着任早々に様々な新局面が展開しましたものの、新教授のもと教室員が一致団結して困難をものともせず、和気あいあいと良い教室作りに励まれているご様子を拝見し、安心させていただいております。岩本先生をお迎えし次第、ご就任祝賀会を速やかに開催したく存じておりましたものの、残念ながら開催困難な状況がまだ継続しておりますことは、大変残念なことにて、同門会会員の皆様にも、歯がゆい思いをおかけして誠に申し訳なく存じております。今年は学内外の医療者のみならず全ての立場の方々が、非常に厳しい状況と対峙されて参りました。ただその中であっても、東京医科歯科大学小児歯科学教室ご関連の先生方が日々、多方面で奮闘努力されている姿を拝見するたびに、尊崇の念を抱くと共に、心強く感じて参りました。おかげさまで今年も同門会のご支援でホームページ（HP）運営をさせていただくことができまして、誠に有難く存じております。教室の創設以来65年間、同門会におきましては、教室で学ばれた多くの先輩方の貴重な体験と伝統を若手会員にもお伝えいただいていることが、温故知新によるcreationに繋がってまいりました。これは同門会会員全員に与えられた大いなる恩恵です。今年のニュースレターは、HP（<http://pediatric-dentistry-tmdu.jp/>）でもご覧頂けます。また、研究と各種活動、会計報告については、年が明けてからHP上に掲載とさせて頂く予定でおります。

会員の皆様のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2020年12月 吉日 小児歯科学教室 同門会長

宮新美智世

教授就任挨拶



東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
小児歯科学・障害者歯科学分野 教授
岩本 勉

「東京医科歯科大学小児歯科学教室同門会」会員の先生方におかれましては未曾有の災禍の中、大変なご苦勞をされておられることと案じております。このたび令和2年5月16日付けで、東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 小児歯科学・障害者歯科学分野 教授を拝命いたしました岩本勉です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況が改善せず、いまだに先行きが見通せない状況が続いております。本来であれば早い段階で、直接ご挨拶を申し上げるべきところ、本紙面をお借りしてご挨拶させていただきますこと心よりお詫び申し上げます。

今年に入り世界各地で新型コロナウイルスが猛威を振るい、3月11日にWHOがパンデミックを表明、わが国も4月7日緊急事態宣言を発出しました。第一波を乗り越え5月25日に緊急事態宣言は解除されたものの、7月から8月にかけて第二波の感染拡大が起これ、さらに、この文章を書いております11月現在は第三波の入り口に立たされています。以前にも増して感染者数や重症者数は増加傾向にあり、出口が見えないトンネルの中を日々歩んでいる状況が続いております。見えない敵に対し、感染拡大を阻止すべく、われわれの生活環境、社会環境、そして診療環境、教育環境は一変させられています。皆様方におかれましても様々な場面で相当のご苦勞、ご心勞の渦中であることを拝察いたします。

私自身においては、緊急事態宣言発令中での着任となり、着任時は歯学部附属病院は外来診療が閉鎖され、かつ職員にはテレワークが実施されておりましたので、非常に閑散としたまさに週末の大学に通勤するような状況で、医科歯科大学勤務がスタートいたしました。教室員への挨拶もオンラインで行い、この状況がわが国にとって極めて異常事態であることを改めて実感することになりました。6月中旬より外来診療は厳重な感染対策を施した上で再開されましたが、いまだに大学内であっても、他教室の先生方も、まともな会話さえも十分できないままであり、業務としての会議はオンラインで行う状況が今日も続いています。新入学生、新入社員がコロナ禍の煽りで、精神的な負担になっていることに至極共感できる日々を過ごしているというのが正直なところではあります。

しかしながら、このような社会状況で一番煽りを受けるのは、支援を必要とする方々です。特に子供達においては本当に心配な状況が続いています。大人は状況を理解し受け入れることができますので、今年は我慢をし来年こそは、ということで乗り越えることができるかもしれませんが、子供達の成長発達の時間軸の中では、1日たりとも無駄に過ごして良い時間はありません。学校生活や課外活動などにも影響が出ておりますし、各家庭生活の中でも生活リズムの乱れなどが生じています。そのような中、齲蝕や肥満といった健康面の問題も表出してきています。しかしながら、何よりも精神面への影響を心配いたします。様々な格差が問題となって久しいですが、十分な対策ができていない中で、このようなコロナ禍はさらに格差を拡大させてしまう心配もあります。なんとか知恵を出し合いどのような状況下にあっても未来を担う、未来に夢を持つ子供たちが健やかに育つ社会を提供していく必要があると思います。

さて、大学の方ですが、法人化後、どの大学においても常に改革が求められています。伝統ある本教室も今年度から障害者歯科学分野と統合し、機能強化する形になりました。私が改めて説明することではございませんが、本教室は1956年に初代教授山下浩先生（現本学名誉教授）の下、わが国初の小児歯科学講座としてスタートしました。1977年から2代目教授小野博志先生（現本学名誉教授）、1997年には3代目教授高木裕三先生（現本学名誉教授）に続き、私が4代目となります。わが

国の小児歯科学を牽引してきた歴史と伝統ある本教室を担うことの重さは例えようもございませんが、これは過去の歴史ではなく、本教室の使命でもあると理解しております。齲蝕の洪水時代から、予防医学の進展期、そして、いまは先制医療の時代に突入してきました。まだまだ歯科医学は完璧なものではなく、完全に小児齲蝕を克服できていません。齲蝕のメカニズム、予防法はある程度確立してきたものの、変わらず大学病院で重症齲蝕の小児に対峙することは小児歯科医としての取り組みが不十分であることを意味しています。どうにかまだ生まれてきていない未来のすべての子供達において齲蝕にならない時代が到来することに努力しなければならないと思っています。

2019年、「平成」が終わり「令和」が始まりました。「令和」には「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という荘厳な願いが込められています。新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちは新しい時代的変革期にいるのかもしれない。現在のコロナ対策は、人間社会の根幹を揺るがす方策ばかりですが、美しく心を寄せ合うことだけは見失ってはいけないと思っています。近いうちにコロナウイルスを克服でき、先生方に直接ご挨拶できる日はそう遠くないと信じています。そして、その日を心より楽しみにしております。まずは書中をもってのご挨拶を重ねてお許しください。

最後になりましたが、「東京医科歯科大学小児歯科学教室同門会」会員の諸先生方のご発展を心から祈念いたしますと共に、これから先生方の温かいご支援と厳しいご指導、ご助言をお願いしたいと存じます。何卒よろしくごお願い申し上げます。

略歴

- 1999年 長崎大学歯学部卒業
- 2002年 長崎大学大学院修了, 同助手
- 2004年 米国国立衛生研究所 客員研究員
- 2006年 九州大学病院助教 小児歯科
- 2009年 東北大学病院助教 小児歯科
- 2012年 東北大学病院講師 小児歯科
- 2013年 徳島大学教授 小児歯科学分野
- 2020年 東京医科歯科大学教授 小児歯科学・障害者歯科学分野



2020年度 分野の活動について

小児歯科学・障害者歯科学分野 講師 柿野聡子

2020年3月に宮新美智世先生、橋本吉明先生が定年退職されたのち、5月に岩本勉教授がご就任され、分野にとって大きな節目を迎えることとなりました。Covid-19が世界中に変化をもたらす中、大学ではこれまでにない形式で外来診療、学生教育、研究活動を余儀なくされましたが、同門会の皆様のご支援のおかげで大きな問題もなくここまでくることができました。

3月25日、東京都より不要不急の外出を控えるようにとの要請が出されました。歯学部附属病院（以下、歯病）の小児歯科外来でも受診を控えたいという患者さんが次第に増え始め、春休みの新患数は前年の約25%にとどまりました。そのような中、3月末に小児歯科研修生の修了式、及び退局者の退職式を講義室で行いました。一堂に会することが次第に難しくなりつつある状況下で、Social distanceを保ちながら、皆で和やかに行うことができました。

新年度を迎えて間もない4月3日、新任の水口俊介歯学部附属病院長より、医学部附属病院（以下、医病）への定期往診を行っている一部の診療科の代表が招集され、歯病は間もなく休診に入る予定であること、それに先駆けて、院内感染のリスクを回避するため歯病と医病の行き来を全て中止し、医病への往診は緊急の依頼時のみ行う方針が伝えられました。その後、東京都を含む7都道府県の緊急事態宣言が発令され、4月13日に全診療科において診療縮小、4月20日以降は緊急時以外の診療は全て中止となること歯病全体に周知され、患者さんへの電話や緊急を要する治療の予約調整に追われました。また、標準予防策(Standard precaution)の徹底、個人防護具(PPE: キャップ、ガウン、フェイスシールド等)の装着の指示があり、職員の発熱時対応フローも周知されました。歯病職員は、医病からの協力派遣要請により、医病玄関で発熱のある患者のスクリーニングを行うことになりました。当分野も当番制で参加し、患者さんへの手指消毒の呼びかけと検温を行いました。さらに、PCR検査の担当者が公募され、担当者に対する教育プログラムが開始されました。その後、緊急事態宣言の延長を受け、歯病の休診も6月14日まで延長することが決定されました。休診中、歯病では病棟を除く全外来が閉鎖となり、1階の総合診断部とスペシャルケア外来で急患対応を行っていましたが、小児歯科と矯正歯科、ペインクリニックの患者さんについては病院側からその特殊性にご配慮いただき、2階の外来での診療を許可されました。小児歯科では毎日、教員と医員が当番制で急患の待機、往診担当は医病からの往診要請の待機となりましたが、それ以外の職員は原則、在宅勤務となりました。

6月15日の病院再開を控え、歯病の『新型コロナウイルス感染対策指針』が出されました。更に、感染対策強化のため患者予約数を一時的に減らし、小児歯科外来で使用できるユニットは、隣同士を避けて10台中6台のみとなりました。エアロゾルが出る治療の際は口腔外バキュームの使用を義務づけられています。9月には歯病全体で口腔外バキュームの台数が増え、ユニット間にパーテーションを設置したことで、小児歯科ではユニット9台を稼働できるようになりました。12月現在も患者数は回復傾向にあり、昨年度の約7~8割となっています。

5月、全学的に対面の会議開催の中止が呼びかけられたため、学内の会議はオンラインで行われています。医局会（集談会）も一時中止となりましたが、9月より再開しました。小児歯科外来の新たな試みとして、毎週金曜日に全ての新患患者の症例についてカンファレンスを行っています。皆で新患対応や治療方針についての情報共有をすることができ、同時に学びの場ともなっています。

小児歯科外来では2016年より、毎週金曜日に医病小児科病棟への定期往診を行ってききましたが、定期往診は12月現在も休止中で、骨髄移植や化学療法等の周術期治療開始前のスクリーニングや口腔粘膜炎の診察を中心に、小児科からの依頼時のみ往診を行っています。感染予防のため隣り合う病院でありな

がら行き来が不自由となりましたが、本学小児科病棟では血液内科疾患による免疫不全の患児の割合が高く、やむを得ない状況です。これを受けて、往診の統括をしている大石特任助教が中心となり、長引くCovid-19の感染状況を鑑み、業務課や小児科病棟の先生と共にオンライン歯科診療の実現に向けて着々と準備を進めてきました。運用開始できる日はそう遠くない状況で、小児科の先生からも期待の声が上がっています。

学生教育について、大学本部は3月18日に新学期4月1日から全学部の対面授業を中止とし、遠隔講義で行うことを決定しました。当分野においても、4月は教員で分担してオンライン講義の準備をし、学生は自宅にいながら講義動画を視聴、または同時型オンライン講義を受けました。緊急事態宣言の延長に伴い、歯学部では各科目間の講義・実習の日程調整が繰り返し行われました。6月中旬、実習開始のため学生の登校が再開するにあたり、学生発熱時の対応フロー作成、実習机間のついたての設置、2つの実習室に分かれて密を避ける、フェイスシールドの装着等、様々な対応が行われました。小児歯科の実習全般は和田助教を中心に準備を行い、他科同様に若干の実習時間の削減はあったものの、ほぼ例年通りに行うことができます。

今年度、2名の大学院研究生が新入医局員として入局しました。大学院研究生と大学院生は4月に入って早々に在宅学習となり、6月中旬までの2か月半の間を自宅で過ごすことになりました。病院休診中、上原助教の取りまとめにより小児歯科の卒後研修はオンラインで行われ、例年より遅れつつも無事研修を開始することができました。

感染拡大の第3波が到来し、今後も予断を許さない状況ではありますが、Covid-19対応にとどまることなく良い診療、教育、研究活動ができるよう、岩本教授のご指導の下、教室員一同、日々奮闘しています。同門の先生方には多くの温かい励ましのお言葉をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

2020年度 分野の動向

- 4月 鈴木駿介先生 春の叙勲・褒章で旭日小綬章を受章
- 4月19日 第10回日本外傷歯学会総会東日本地方会総会・学術大会 誌上開催
- 4月20日 歯学部附属病院 休診
- 5月16日 岩本勉先生 小児歯科学・障害者歯科学分野教授に就任
- 6月1-18日 第58回日本小児歯科学会大会 誌上開催
- 6月14日 歯学部附属病院 診療再開
- 6月27日 野田忠先生 ご逝去
- 9月27日 第20回日本外傷歯学会総会・学術大会 誌上開催
宮新美智世先生 日本外傷歯学会 学会賞を受賞
- 11月4-6日 第67回日本小児保健協会学術集会 Web開催
- 11月6-20日 第5回日本虐待予防歯科研究会・学術大会 Web開催
- 11月13-23日 第37回日本障害者歯科学会総会及び学術大会 誌上開催

【発行】 東京医科歯科大学大学院 小児歯科学・障害者歯科学分野内
東京医科歯科大学 小児歯科学教室 同門会事務局
TEL 03-5803-5540 FAX 03-5803-0204